# あの頃の思い出 ▸2◂

## 駅前校舎最後の卒業生

# 教室の板剥がし、薪に

関 徹彌（74）＝昭和37卒同期会事務局長

わが昭和37卒は、3年のときに前回の秋田国体があった年次で剣道部が見事準優勝したが、「駅前校舎最後の卒業生」と言った方が分かりやすいだろう。

駅前校舎であるから秋田駅や駅前繁華街には徒歩数分。丸丹へのパンの買い出しや食堂での昼食。金萬や鎌田の酒饅頭（まんじゅう）、その途中には喫茶店もあった。図書館代わりに利用した日米文化会館はほぼ隣接していたし、その隣には映画館もあった。とにかく何をするにも便利だった。

木造2階建てだった駅前校舎。
（左の写真ともに卒業アルバムより）

### 卒業式だけ手形の新校舎で

卒業式だけは未完成の手形校舎で行われた。しかし、それは入学時から「新校舎建設協力金」なるものを3年間納付させられていたことへの義理で全くの茶番、と私たちには映った。卒業式に間に合うように、卒業生が列を組んで自分の椅子を手形校舎まで運んだということもあった。

3年になったころには、「どうせ解体されるだろう」ということから、教室の腰板はどんどん剥がされ、薪代わりになった。隣のクラスでも同じことをするものだから、あちこちに「のぞき窓」があった。試験のときには監視の先生が隣室をのぞき、「誰がカンニングしているかよく見える」などと言って笑わせていた（ちなみにストーブ用の薪は1校時当たり3本と決められており、毎朝当番の者が当日の時間数分の薪を薪置き場からクラスまで運ぶのが日課だった）。

縦に長い体育館は、横幅はバスケのコート幅ぎりぎりだった。その体育館ではバスケ部のほかに、卓球部、バトミントン部、レスリング部、空手部、ボート部、体操部がひしめき合い、それでも大したトラブルもなく練習に励み、各部ともそれなりの成績を収めていた。

体育館の床は長年使用された証しか、節の部分だけが浮き上がっており、

せき・てつや／昭和18年7月秋田市生まれ。37年秋田高校卒業後、県内社会保険事務所や県庁に勤務。県国民年金課監察官で退職後、平成12年に社会保険労務士・行政書士事務所を開設。秋田魁新報に毎週火曜日、「暮らしの中の年金・健保」を2年間連載（計100回）。ABSラジオでも「花咲け！ネンリン倶楽部」で4年間解説。16年に秋田年金実務研究会を開設、主宰。25年には「地域力フォーラムinあきた」の立ち上げに参画、実行委員長。著書に「暮らしの中の年金・健保」（秋田協同書籍）。


医療法人清心堂
湊小児科医院
理事長　医学博士
湊　元志（昭和55年卒）
TEL.018-834-5621
秋田市中通5丁目7－34

冷暖房・空気調和・換気・給排水
衛生設備設の設計・施工
羽後設備株式会社
代表取締役社長
佐藤 裕之（昭和55年卒）
〒010-0917
秋田県秋田市泉中央二丁目2番29号
TEL 018-863-0202
FAX 018-863-0205

うまい酒 千代緑（チヨミドリ）
有限会社 奥田酒造店
奥田重徳（昭和55年卒）
秋田県大仙市協和境字境113番地
電話：018-892-3001

GALA AMANO
代表取締役 天野洋介（昭和55年卒）
〒010-0944 秋田市川尻若葉町1-33マエタビル3F
TEL:018-883-1102　FAX:018-883-1103